

金森 千昭 (ステンドグラス<アントレ>) 会員証いただきました。ID0015 何だか F.B.I か 007 みたいで一寸嬉しい。
 ガラスとの交り合いは 20 年、未だ満足出来た作品は一点もありません。でも今、素敵な作家の皆様の仲間に入れていただいたのだから頑張ります。
 どうぞよろしく御指導の程お願いいたします。

ホームページのご案内

アドレスはこちら



<http://jsgaa.org/>

会員のホームページにもリンクしています。

会員を募集しております

あなたの周りで J S G A A の活動に興味をお持ちの作家さん、キラリと光る作品作りで評判の作家さんをご存知の方は是非お声をかけてみてください。
 自薦の方は事務局に必要書類がございます。お気軽にお問い合わせ下さい。

癒されるということ

バブルが崩壊した 1990 年代ごろから癒し、安らぎ、ヒーリング、などという言葉をよく耳にするようになりました。果ては各地で人気のゆるキャラなるものまで…。それまでの刺激的で攻撃的なものを求めていた人々も人間の本能である争いを避ける平和な暮らしに帰ってきたということなのでしょう。

一般的に人が癒されると感じるのは音楽を聴いたり温泉に入ったりいい香りを嗅いだりと五感を通して好ましいと感じた場合です。

五感のひとつである視覚は常に沢山の情報を処理しています。癒しを感じ取るツールというよりはむしろストレスを取り込むツールとして機能していることのほうが多く、日常生活の中ではたとえ癒される要素であってもそれを情報として捉えてしまい癒しにつなげられないこともあるのです。

「ステンドグラスってきれいね。癒されます。」と言われることは多いと思いますが、ステンドグラスを見たとき単に色や形だけを情報として捉えているのではなく、美しい景色を見たときそこに溢れている光と同じ光をもうひとつの要素としてプラスすることによって、人は感覚を呼び戻し、癒されると感じているのかもしれない。何をするでもなく視線を向け、ただじっとそのむこうにある光を感じる。

私たちはステンドグラスを作っているがらいつもほっと癒されています。なかなかいい仕事ですね。

 本協会への入会、お問い合わせは事務局及び各会員までお願いします。

発行日 2010年6月1日
 発行者 日本ステンドグラス作家協会
 (事務局) 〒165-0034 東京都中野区大和町 3-20-1-701
 林 晶子 (A工房)
 編集者 〒841-0004 佐賀県鳥栖市神辺町 1589-3
 櫻井 由美 (ステンドグラススタジオ Y's COMET) Tel.0942-84-5546

日本ステンドグラス作家協会

会報誌

JSGaA

第4号 第4号

2010年6月 Vol.4



Sakae Gotoh

日本ステンドグラス作家協会は発足から一年を迎えることができました。本会の設立から組織づくり、そして何より京都での第1回目の展覧会開催とあつという間の一年でした。

当初8名でスタートしたこの会も現在は会員数15名と協会設立の目的に賛同する仲間が増え今後の活動も更に活発になることが期待されます。

本会はステンドグラスを通じ時代に即した新しいガラス芸術の創造と普及、啓発を図り、常に最高水準の技術を維持しまたそれを発展させることに努めると共に次の時代を担う人材の育成に尽力し、作家相互の親睦を図ることを目的とします。

(会則・第二章 第3条)

2010年3月11日(木) 銀座教会・東京福音会センターに於いて平成22年度通常総会を開催しました。

通常総会

平成21年度の事業報告、決算報告に続き、平成22年度の予算、事業計画並びに各規定についての審議が行われました。

皆様、長時間に亘りお疲れ様でした。それでも話し合いたいことはまだまだ山積みだった訳ですが…。今年度の活動内容や来年度に予定の展覧会のコンセプトについても具体的な検討や意見交換の時間がもう少しほしかったところです。

インターネット社会になったとはいえ、今でも人の顔を見ないとかな

か物事は決ま
っていかない
ものですね。

ともあれ、各地
からお集まり
いただいて貴
重な時間を共
有できたこと
に感謝です。



総会に先立ち懇親会を兼ねた昼食会が開かれました。新入会の金森さんをお迎えして楽しく談笑し、親睦を深めるひと時となりました。それぞれの近況報告を伺っているとあつという間に時間が過ぎ情報交換はまた次の機会のお楽しみということでお開きです。

商標登録の完了

登録番号 第5268620号
登録日 平成21年10月2日

昨年秋に商標登録が完了しました。

立ち上げてまだ一年目の団体にもかかわらず、本会及び各会員の活動の実績により、この会は「日本ステンドグラス作家協会」という名称を名乗るに相応しい団体であると公の機関から認められたということです。

これは私たち会員にとって大変喜ばしいことであると同時に今後末永くこの名前に恥じない活動を続けていく責任を担うということでもあります。

ステンドグラスを通じて社会に貢献できるようみんなでその役割を果たしましょう。

商標登録の取得にあたり申請のためのたくさんの資料づくりや特許庁での手続きに何度も足を運んでいただいた理事の林さん、お疲れ様でした。みんな感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



聖マリア病院

建築におけるステンドグラスを制作する場合、どういう空間にパネルを入れるのかは作家にとって大きな興味である。目的はもちろんのこと東西南北どちらに面しているのか、視野視線の動きや角度、対象物との距離等、全体を理解した上でないとその空間にピッタリの作品は作れない。

福岡県久留米市の聖マリア病院にあるステンドグラスが施工された場所に付随する建築的特色を紹介してみたいと思います。

作品は海外の作家の手によるものでエントランス

ロビーの一番奥、西側の壁面に取り付けられていて、西日がよく当たるためアンバーのガラスの色が真っ赤に輝いていました。外には通路があるようで人が通る度に影が動いてゆきます。良く見るとマリア様の足下の辺りだけがゆらゆらと揺れています。いったいどうなっているのかと思い外へ回ってみることにしました。

ゆらゆらと揺れていたのは水面でした。作品の向こう側に幅2mぐらいの水をはったスペースが設けてあったのです。水に動きが生まれるようにパイプが通され水の流れを作ってマリア様の足下を揺らしたのです。ただ水があるだけではガラスを通して室内まで光の変化を感じさせることは難しいでしょう。まったく心憎い演出です。



そこにはライトアップの為の照明もあり、夜の表情もまた是非見てみたいものだと思わせてくれました。

文章・写真 櫻井由美
(ステンドグラススタジオ Y's COMET)